

# 5 分間ファイヤー・ドリル 〔デジタル公衆電話による通報訓練〕

< 最低必要訓練人数 = 2人 >



「火事だ! 火事だ」と叫びながら電話の位置まで走ります。

あわてずに、しかし、迅速に行動しましょう。

訓練を行うのは1人ですが、1人は、訓練の良否を判断しましょう。



受話器をあげて、発信音（ブー）が聞こえたら、119とダイヤルボタンを押します。

テレホンカードや硬貨なしでもかけられます。

[消防]:「 消防です。火事ですか、救急ですか」



「訓練火災、訓練火災、こちらはです。 で火災が発生しました。」

「訓練火災」を2回繰り返します。

[消防]:「場所は、どこですか?」

「 町 丁目の です。」



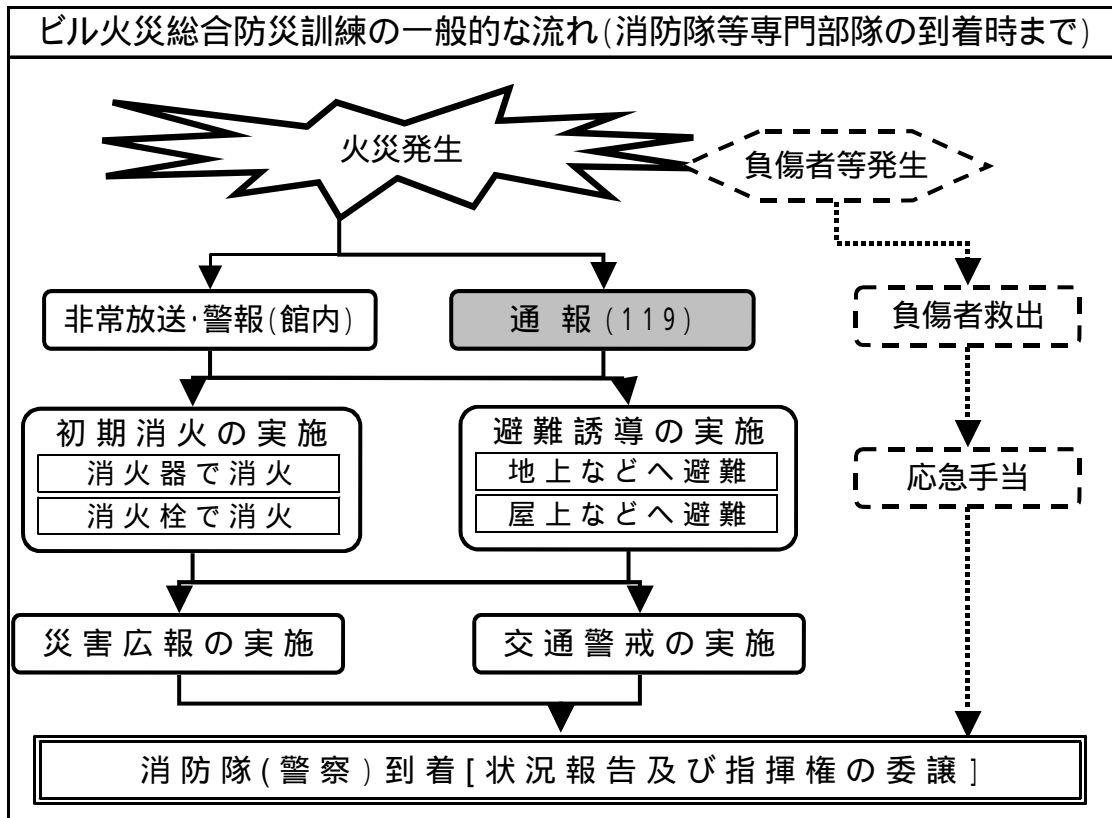
[消防]:「目安となる建物がありますか?」

「 の近くです。」

= 対話方式を進めます。落ち着いて話しましょう。 =

[消防]:「わかりました。直ちに出勤します。」

「デジタル公衆電話による通報訓練」は、次の図のハッチング部分です！



### 訓練実施上の安全点検チェックリスト

平成 年 月 日実施

	点 検 項 目	確認欄
訓練前	・訓練実施者の健康状態は良いですか？	
	消防本部又は消防署との事前協議は、済んでいますか？	
	デジタル公衆電話の状況(外観)は、良好ですか？	
	・119への通報要領(マニュアルなど)を持っていますか？	
	・訓練場所は、安全な場所ですか？	
	・訓練監督者は、いますか？	
訓練中	訓練実施者は、落ち着いて話していますか？	
	必要な事項(5W1H)を話していますか？	
訓練後	・訓練実施者の健康状態は良いですか？	
	公衆電話を元の状態に戻しましたか？	
	・反省会を行いましたか？	

： 実際にデジタル公衆電話を利用して通報訓練をするとき、特に注意しましょう

= さあ！ 訓練をやってみよう！ =